

# はたらきかた

## 改革通信 2024 No.1

R6.5.30

### 魅力アップUPノ校支援事業がスタート 5月15日(水)

専門家の知見を取入れながら業務の見直しと改善を行う「魅力アップUPノ校支援事業」が、塩尻市でスタートしました。本事業のアドバイザー（専門家）として、妹尾昌俊氏（一般社団法人ライフ&ワーク）に年間を通してご支援をいただきます。1回目となる広陵中でのガイダンスでは、「なぜ働き方改革が必要なのか」をテーマに以下のようなお話をいただき、今後取り組む“ワークログ”シートの使い方等の説明を聴きました。会場に集まった先生方からは、初めての取組で不安に思うが、自身の業務改善につなげられるようにチャレンジしてみたい、という声が聞かれました。



#### Why:なぜ忙しい日々を変える必要があるか

目的 自分の命と健康を大切にすると → そのために 時間外勤務を月 45 時間以下に

#### What:なにをしていけばよいか

目的 放課後の時間を生み出す → そのために 本当に必要な業務を問い直す

#### How:どのように進めるのか

目的 自分の業務を客観視する → そのために 一定期間のワークログを取る

#### ワークログ（任意の期間の実務記録）のイメージ

	7:30	7:45	8:00	8:15	8:30	8:45	9:00	9:15	9:30
分類を選択→	★通勤	児童生徒指導	児童生徒指導	児童生徒指導	児童生徒指導	児童生徒指導	児童生徒指導	児童生徒指導	児童生徒指導
業務を選択→	往路	b授業準備	c学習指導	a授業	a授業	a授業	a授業	a授業	a授業
	30	w6:30	w6:15	w6:45	w6:45	w6:45	w6:45	w6:45	w6:45

<選択肢>  
児童生徒指導  
学校運営  
外部対応  
通勤……

<選択肢>  
a 授業  
b 授業準備  
c 学習指導  
d 成績処理……

<ウェルビーイング度>  
その業務のやりがい度を 10 段階で記録

<時間>  
かかった時間を記録

今後、ワークログのエクセルシートを塩尻西小、広陵中の2校に配付し、次回訪問日までの任意の1週間の勤務実態をつけていただきます。ワークログの結果、見えてきたことや活用の仕方等は今後お知らせします。次回の訪問支援は、7月11日(木)広陵中、7月12日(金)塩尻西小にて行います。内容は「ワークログの振り返りと課題の洗い出し」となります。

# 働き方改革シェアミーティング開催 5月20日(月)

## ～第1回テーマ「始業時間の見直し」～

昨年度行っていた働き方改革検討会議をリニューアルし、県内の市町村教育委員会や小、中、義務教育学校をオンラインで結び、学校の働き方に関するテーマについて話し合う「働き方改革シェアミーティング」を実施しました。

第1回目は、32の市町村教育委員会、小・中学校のそれぞれ働き方改革を推進されている方々にお集まりいただき、信州大学准教授の荒井英治郎先生や妹尾昌俊氏のアドバイスをいただきながら「始業時間の見直し」について考え合いました。



### 開錠時間の課題

教職員の勤務時間前に玄関を開けている学校が多い現状。

早く登校した子ども  
同士のトラブルやケ  
ガが心配…



### 💡 こんな工夫をしています

- ・朝の活動をボランティアの方に見守ってもらっています。
- ・開錠時間より早く来すぎないように保護者通知でお願いをしています。

### クラブの朝練習の課題

小学校の金管や合唱クラブは、朝練習している学校が多い現状。

時間外の指導を  
お願いするのは  
申し訳ないが…



### 💡 こんな工夫をしています

- ・地域の活動に移行していくように話し合っています。
- ・地域の指導者に依頼をして、週3回程度の放課後練習に切り替えています。

### 朝の活動の課題

朝の活動時間について、他の学校の現状を知りたい

日課の見直しをした  
いけど、読書や集会  
も大切にしたい…



### 💡 こんな工夫をしています

- ・朝の慌ただしさを解消するため、全校集会や読書はお昼以降に行うようにしています。
- ・清掃を朝学活後に行うようにして、下校時刻を早めました。

大阪府豊中市では、朝の預かり見守りを地域人材が参加して行っています。また、神奈川の大磯町では、学童(プラザ)の受入れを朝にも拡大した、という例もあります。共働き家庭が増えている事情やバスの運行状況も理解できるのですが、そもそも、保護者が教職員の勤務開始時間がいつかを知らないケースもあるので、保護者通知などで情報発信し、理解を得たうえで登校時間を調整することが大切です。



妹尾昌俊氏



荒井英治郎先生

「子どもの成長を感じ取れる」ことは教員のやりがいにつながりますが、果たして朝の諸活動を通じてでしかなしえないのかという問い直しも必要です。「始業時間の見直し」は、①学校の開錠・開門、②教職員の勤務時間、③児童生徒の登校時間を一度分割して考えてみるなど、「三つ巴」の解消方法を検討していく必要があります。各学校単体での改善には限界がありますので、教育行政がリーダーシップを発揮しながらルール作りを進めてほしいです。

始業時間一つ取ってみても、学校によって実情は様々であることが、改めてわかりました。教職員の勤務時間より前に子どもたちが登校している状況は、多くの学校で共通しており、改善をしたいと考えている方が多いことも確認できました。県内外の実践例を集めながら、改善できる方法を探っていきたいと思います。この通信をお読みいただき、ご意見等がある方は、以下のQRコードにアクセスをして、アンケートにてご回答ください。

次回は、7月24日(水)13:30～15:20 テーマ「日課の見直し」です。6月にご案内をお送りしますので、参加方法等はそちらでご確認ください。多くの皆様と一緒に考え合いたいと思います。よろしくお願ひいたします。



こんな時代だから、ワクワクしたい!!  
これからの目指す姿  
個人と社会の  
ウェルビーイングの  
実現

<お問合せ先>

長野県教育委員会事務局義務教育課(担当:鈴木、藤木)

電話 026-235-7426 Mail: gimukyo@pref.nagano.lg.jp

